

当センターでは、今年の7～8月に学部新生を対象に「新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関するアンケート」を実施しました。1,381名(全新生の56.3%)から回答が得られ、その集計結果については9月に開催された学生生活支援審議会FDにおいてご報告しました。11月以降には、新生および全学生に向けて、集計結果と対処法に関するヒントをまとめたリーフレットを配信しています。また、アンケート結果からサポートが必要と思われる新生に個別に連絡・働き掛けをしています。

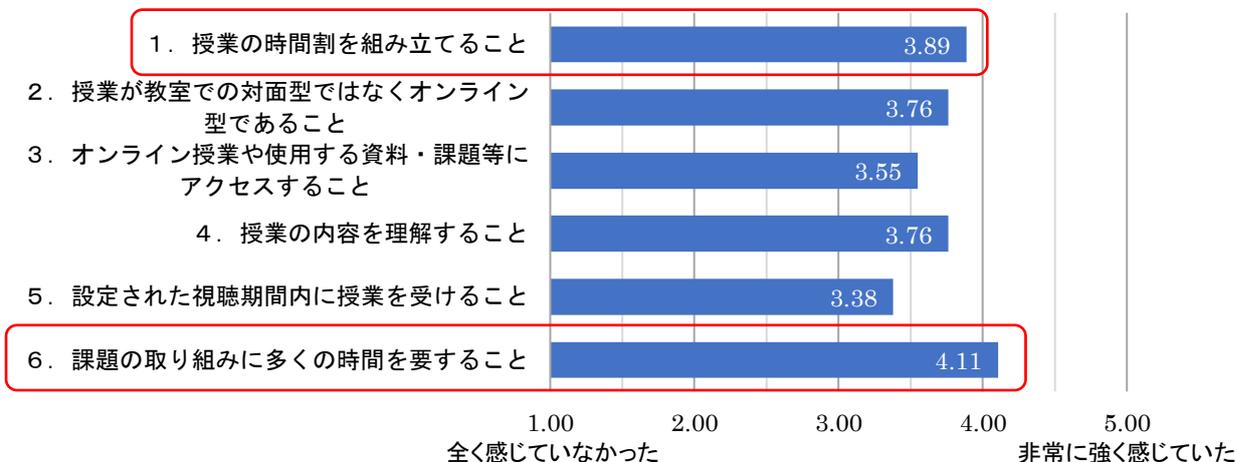
アンケートの結果から、不安な気持ちや気分の落ち込みが高まっていると考えられる新生が2割程度いることが分かりました。現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえれば、自然な結果と考えられます。同様のことが他学年の学生にも教職員のみなさまにも生じている可能性があります。多くの方は、今後、事態が収まっていくと共に自然と元の状態に戻っていくと考えられます。

このリーフレットでは、アンケートの結果に基づき、今後、学部新生に接する際に大切であると考えられる点をまとめてあります。特に他大学から進学した大学院新生や、他学年の学生にも当てはまる部分がありますので、ぜひ一読いただき、今後の学習指導や学生支援のご参考にして下さい。

学生への対応や関わり方等でお困りのことがありましたら、学生相談所にご連絡ください。相談員と一緒に検討させていただきます。(4ページ目に連絡先を記載)。

① 学業について

アンケートでは、下図の左側に記載されている6項目に関する不安について、入学後から回答時までどの程度感じていたか、「1 全く感じていなかった～5 非常に強く感じていた」のうち当てはまる数字を選んでもらいました。下図はその平均値をグラフで表しています。学業への不安では、いずれの項目も高く、中でも「時間割の組み立て」と「課題への取り組み」に関する不安が高いという結果でした。



➤ 今後の対応に向けて

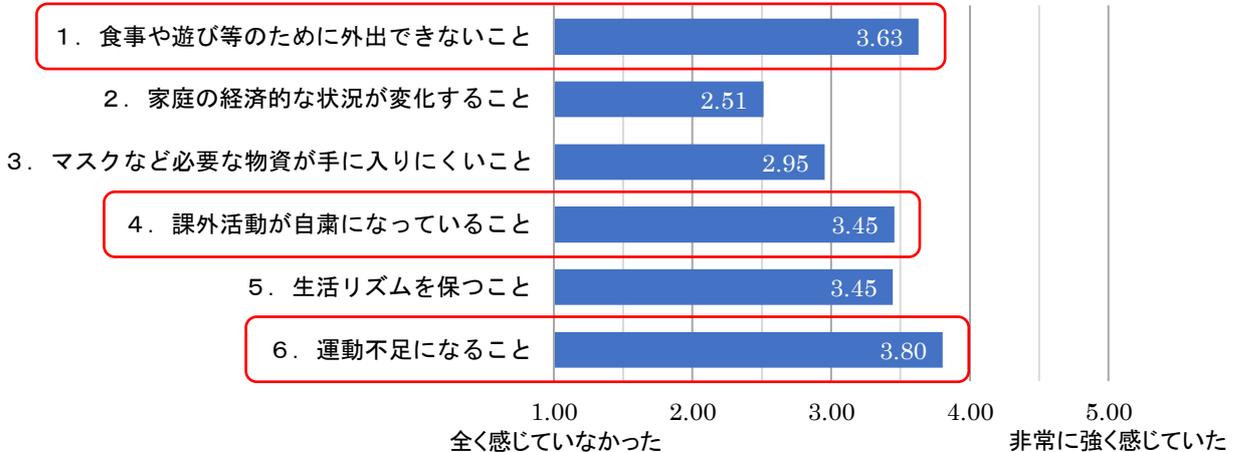
昨年度までの新生の多くは、同級生や上級生の力を借りて履修計画を立てたり、授業の理解を補ったり、課題をこなしたり、どれくらいの水準で課題を仕上げれば良いかを学んだりしていました。しかし、今はそのような日常的サポートがなかなか得られず、不安が強まっている学生もいるかもしれません。

このことから、授業に関しては、学生の理解や意欲を促進するオンライン授業の模索や、課題の量や質の検討、新生が質問しやすい雰囲気づくり等を引き続き行うことにより、新生の不安が和らいでいくと考えら

れます。学生支援に関しては、時間割の組み立て方（専門科目の内容の難しさや、授業で出される課題等とのバランス）に関するガイダンスの充実や、新入生が気軽に相談できるように支援体制の在り方の検討を引き続き行っていくことが、新入生の不安低減につながると考えられます。

②生活について

生活への不安では、外出・活動ができず家でじっとせざるをえないことへの不安を多くの方が感じ、それと関連して生活リズムへの不安も高いという結果でした。



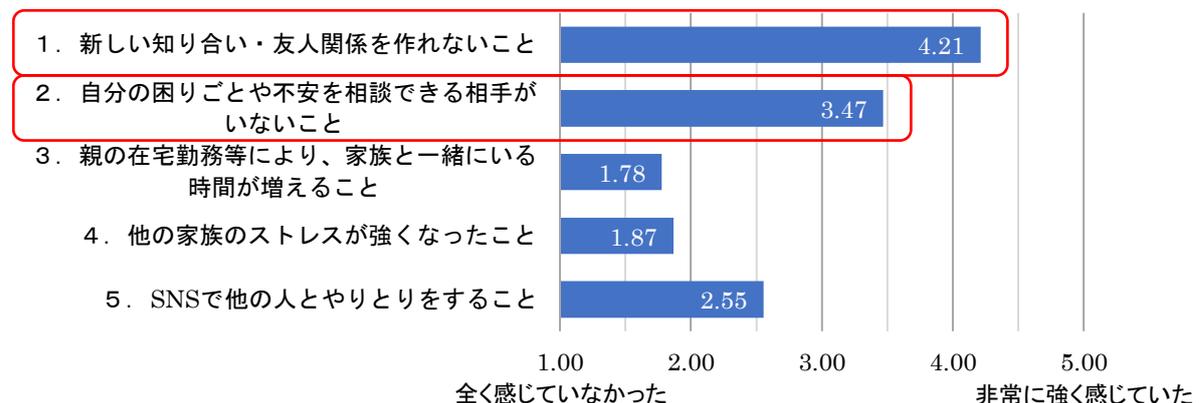
➤ 今後の対応に向けて

対面授業や課外活動の再開と共に、上記の不安は徐々に和らいでいくと考えられます。その一方で、今後、実家を離れて仙台で一人暮らしを始める新入生も増えて行き、一人暮らしという入学期の課題への取り組みが五月雨式に生じることも予想されます。部活・サークルにおいても、既に活動を再開している屋外の運動部等と、まだ活動を再開できていない屋内の文化部等があり、これらへの参加や適応に関しても新入生の間で取り組む時期がずれることが考えられます。また、新型コロナウイルスの影響が長引くほど、学生によっては家族の収入が減少するなど経済的に苦しい状況になったり、アルバイトを始めるよう求められたりすることも生じてくる可能性があります。

今後の学生支援においては、このように新入生ごとに多様になってくることが予想される学生生活を踏まえて、対応や支援の在り方を検討する必要があると考えられます。

③対人関係について

対人関係への不安においては、大学で親しい人間関係を築くことに関する不安は高いのに対し、SNSでのやりとりや家族関係に関する不安は相対的に低いという結果でした。



➤ 今後の対応に向けて

対面授業や課外活動が徐々に再開してきていますが、カリキュラムや科目選択によっては、まだどちらも体験していない学生もいる状況のようです。上記のような不安を現在も強く感じている学生がいる可能性があります。このため、学生支援においては、今学期初めのオリエンテーション等に引き続き、対面授業や課外活動の他にも学生同士が顔を合わせられる機会や場を検討していくことが大切です。また、気兼ねなく教職員に質問や相談ができる体制や雰囲気づくりも、新入生の安心につながると考えられます。

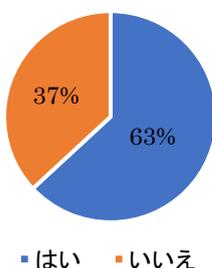
一般的に、ビデオ通話では目的がないと集まりにくいこともあり、本来の日常生活にあった「無目的の交流」が非常に少なくなっています。例えば、たまたま休憩スペースに集まって話をする中で、他の学生がどのように学生生活を送っているかを聞いて、自分の生活や活動を見直したり、自己理解を深めたり、人とのつながりに安心やリラックスを感じたりするような機会が得難くなっています。このことは新入生にとって特に影響があり、他学年の学生にもそれに近い影響が生じていると考えられます。学生同士あるいは研究室単位でオンライン・イベントを開催したという取り組みを聞くこともありますが、そのような工夫を今後も考えて行く必要があると思われまます。

アンケート項目のような家族関係に関する不安は、一人暮らしをしている学生よりも実家で過ごしている学生が感じやすいものですが、「②生活について」でも触れたように、今後、新型コロナウイルスの影響や世の中の状況によって変化する可能性があります。

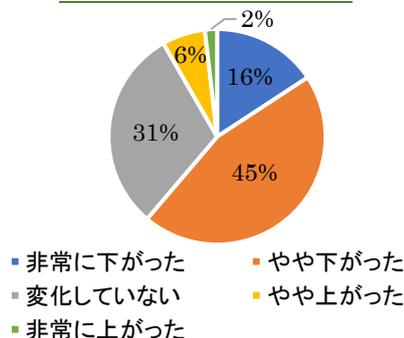
④回答時の状況について

他の東北大生と新しく知り合いになった方は63%、まだ知り合いになっていない方は37%いました。また、大学生活への意欲が下がったと感じた方は61%、上がったと感じた方は8%、変化していないと感じた方は31%いました。さらに、東北大学に所属感を持っていない方は54%、持っている方は21%、どちらとも言えないと感じた方は25%という結果でした。

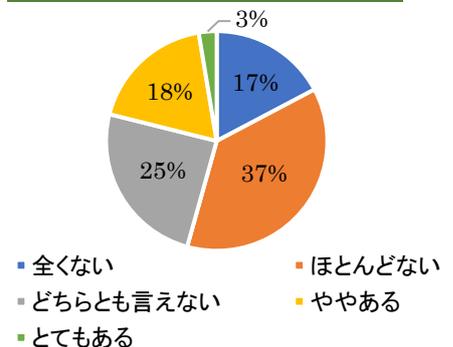
「他の東北大生と新しく知り合いになることはできましたか」



「大学生活への意欲は、どのように変化しましたか」



「自分は東北大学の学生であるという所属感はどれくらいありますか」

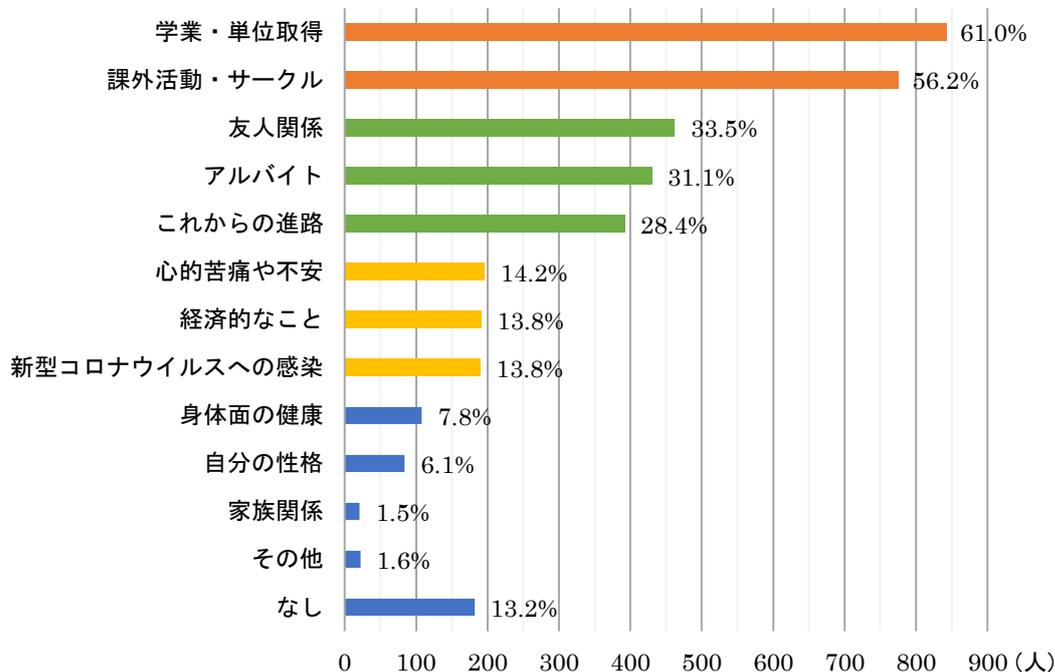


➤ 今後の対応に向けて

対面授業や課外活動が徐々に始まり、他の東北大生と交流したり、一緒に活動したりすることによって、大学生活への意欲や大学への所属感は徐々に高まっていくと考えられます。その一方で、「②生活について」や「③対人関係について」で触れてきたように、そのペースはそれぞれの新入生が置かれている状況によって異なることも予想されます。学生支援においては、そのことを踏まえて柔軟に対応していく必要があると考えられます。

⑤困っていること、大学から支援してほしいこと

アンケートでは、困っていることや大学から支援してほしいことについて、次の図の左側にある13項目から複数選択可で回答してもらいました。結果を見ると、「学業・単位取得」「課外活動・サークル」が60%前後（橙色）と高く、次に「友人関係」「アルバイト」「これからの進路」が30%前後（緑色）、「心的苦痛や不安」「新型コロナウイルスへの感染」「経済的なこと」が15%弱（黄色）でした。



➤ 今後の対応に向けて

本結果から、「新型コロナウイルスへの感染」そのものよりも、それによって影響を受けたものや失われたものに関する支援ニーズが高いことが読み取れます。学業や大学生活、対人関係に関する困りごとの中でも「学業・単位取得」と「課外活動・サークル」が高く、半数以上の新入生が大学からの支援を求めています。これらに関しても、対面授業や課外活動を徐々に再開していくことと、ここまでに触れてきた点を踏まえて学習指導や学生支援を行っていくことの両方により、ニーズの中味も平時のものへと戻っていくと考えられます。また、これらの支援ニーズは学生が置かれている状況によって変化していくと予想されるため、今後も一定の期間を置いて把握していく必要があります。

最近の報道等からも、本アンケートや当センターに寄せられている相談内容からも、新型コロナウイルス感染拡大は本学学生に様々な面で影響を及ぼしていると考えられます。このリーフレットでは学部新入生に対応するためのポイントをいくつかお伝えしましたが、今後、この他にも様々な状況が生じ得ると予想されます。対応が難しいと感じる場合には、ぜひ当センターへご連絡ください。専門の相談員が一緒に対応を考えさせていただきます。

<本リーフレットに関するお問い合わせ先>

学生相談・特別支援センター 学生相談所（川内北キャンパス）

TEL：022-795-7833 MAIL：gakuso@ihe.tohoku.ac.jp

HP：http://www.ccds.ihe.tohoku.ac.jp/front/counseling_office/